

商工観光労働企業委員会 県外所管事務調査の概要

◆調査日程 令和元年9月11日（水）～9月13日（金）

◆調査先・調査内容

①株式会社箔一（石川県金沢市森戸）

調査内容：伝統工芸「金箔」を利用した取組について

株式会社「箔一」は、1975年創業、社員約220名。

「金沢箔」を地域ブランドとして発展させるため、あらゆる分野に用いることに挑戦、製箔の端材「切り廻し」を「食用金箔」として活用し、全国の製菓メーカーやホテルに提供するなど、食品をはじめ化粧品、建築など幅広い分野で活用されるようになり、金沢の地場産業「金沢箔」の地位確立に貢献している。

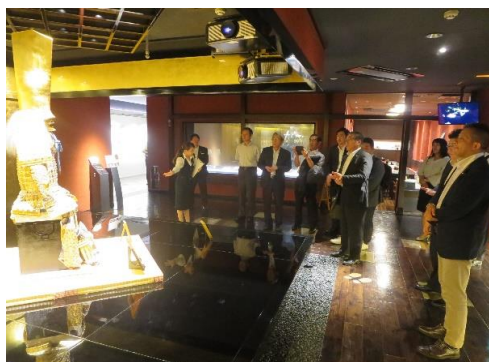
また、金箔を打ち延ばす際の副産物であった和紙を「あぶらとり紙」として日本で初めて商品化に成功。

伝統産業に埋もれがちな伝統の魅力を引き出し、現代の技術を応用させることで新たな価値の創造に挑戦している。

今回、社長との意見交換及び資料館の見学等を行い、同社の伝統産業の取組について調査した。

<主な質疑等>

- ・メディア戦略、SNSの活用について
- ・職人の確保について
- ・女性社員の活躍、勤務状況について



②輪島商工会議所（石川県輪島市河井町）

調査内容：次世代交通対策事業WA-MO（電動カート）の取組について

輪島商工会議所は、地域住民の生活の安全・安心を守ることや、観光客の市内中心部での回遊性向上を図る新たな移動手段として、電動カートWA-MO（W a j i m a S m a l l M o b i l i t y）を活用した新交通システムを開発。

2014年、全国で初めてWA-MOに公道走行に必要なナンバーを取得し、2コースで走行開始、現在は自動走行も含めた3コースで市内中心部を走行。観光客や地域住民の移動手段として活躍している。

今回、WA-MOの導入に至った経緯、今後の課題・方針等について説明を受け次世代交通対策事業WA-MOの取組について調査した。

<主な質疑等>

- ・他の既存の交通機関に与える影響について
- ・市民と観光客の利用状況について



③白米千枚田（石川県輪島市白米町）

調査内容：地域資源・景観を活用した観光への取組について

白米千枚田は世界農業遺産「能登の里山里海」（2011年6月日本で初めて世界農業遺産に認定）の構成要素となる棚田。

日本海になだれ込むかのように水田が開かれ、その数は約4ヘクタールの斜面に1004枚、国指定の名勝に指定され、多くの観光客が訪れている。

また、千枚田は重要な観光地であり、千枚田をアピールするために様々なイベントを企画しているが、中でも冬期閑散とする市内への誘客を図るため、ライトアップをするイベント「あぜのきらめき」は能登の新たな観光資源として注目されている。

今回、輪島市観光課及び白米千枚田愛耕会から説明を受け、同所の地域資源・景観を活用した観光への取組について調査した。

<主な質疑等>

- ・収穫したお米の流通状況について
- ・潮風による塩害、病害虫の発生状況について



④株式会社リベラル（東京都江戸川区西葛西）

調査内容：障がい者雇用の取組について

株式会社リベラルは2008年4月に設立。従業員39名のうち障がい者は30名、中古OA機器の清掃・修理・販売等に当たっている。

「社員が会社に合わせるのではなく、会社が社員に合わせる」という経営方針に基づき、働きやすい環境を整備。特例子会社でありながら外部売上げが売上全体の75%を占めるなど生産性の向上を実現。

障がい者の特性にあわせて多様なマニュアルを作成・活用し、障がい者が他の障がい者を教える環境を整備することにより、一人一人が自ら考え行動できるようになりチームとして機能している。

また、障がい者全員を正社員として雇用し、一般の水準より高い給与・賞与を支給することにより、モチベーションの向上、高い職場定着率も実現している。

今回、会社の取組について説明を受け、実際の作業の様子を見学し、同社の障がい者雇用の取組について調査した。

<主な質疑等>

- ・障がい者の採用の仕方について
- ・商品の販売方法について

